

2019年3月10日

福音書からのメッセージ

イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』と言われていた」とお答えになった。(ルカによる福音書4章12節)

イエス様はガリラヤでの伝道の前に、荒れ野に行き悪魔に誘惑されます。しかし聖書をよく読んでみると、イエス様は“霊”、つまり神さまのご意思によって荒れ野に向かわされていることに気づかされます。

イエス様は40日間、悪魔から誘惑を受けられます。そしてその期間が終わり、空腹を覚えられたときに、さらに三つの誘惑を受けます。「石をパンに変えてみろ」、「悪魔であるわたしを拝め」、「神殿の屋根の端から飛び降りてみたらどうだ」。

それぞれの誘惑に対して、イエス様は聖書の言葉で答えられます。「人はパンだけで生きるものではない」、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」、「あなたの神である主を試してはならない」と。

さて、この出来事を、わたしたちはどのように理解したらいいのでしょうか。さすがイエス様、悪魔のことなんか簡単に退けられた。よかった、よかった、というだけで済ませていいのでしょうか。今日は二つの面から考えていきたいと思えます。

一つは「誘惑される者」としてのわたしたちです。本日の特祷では、「どうか己に勝つ力を与え…」と願います。大齋節の期間は日曜日を除くとちょうど40日です。イエス様が荒れ野で誘惑を受けられた日数と同じです。この40日間は特に意識して、祈り、み言葉に聞き、誘惑から身を遠ざけるのです。わたしたちの内には、やましい心、妬み、怒り、蔑み、いろいろな感情が沸き起こっていきます。わたしたちはそのときに、聖書のみ言葉をもって、祈りの内に神さまへと心を向き直したい。イエス様のようにすべての誘惑を見事に退け



ることはできないかもしれませんが、「わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」と祈り求めながら、この大齋節の期間を過ごしていきたい。

これが一つです。

もう一つは、わたしたちこそが「誘惑する者」であるという捉え方です。わたしたちは様々な祈りをします。祈りは難しいものです。祈りがいつの間にか、自分勝手な願いになっていないだろうか。イエス様をまるで便利屋のように、自分に都合の良いように利用しようとしていないだろうか。もしかしたらわたしたちもイエス様を誘惑した悪魔のようにイエス様に向かって、「神の子だったらこうしてみろ」と迫っているのではないかと思うのです。

そのときに、心に留めていきたい言葉があります。それは「み心のままに」という言葉です。み心を求めて祈るとはどういうことでしょうか。「イエス様、わたしには今、このような願いがあります。でもね、イエス様。どうぞ神さまの思いのままにしてくださいね」。そのような会話が祈りの中でできたとき、わたしたちはイエス様と共に歩む者となれるのではないのでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>